

第5回 SAFの導入促進に向けた官民協議会 説明資料

令和6年6月27日
航空局

1. 令和5年度における航空局の取組
2. 令和6年度における航空局の取組
3. 最近の国際的な議論

1. 令和5年度における航空局の取組

2. 令和6年度における航空局の取組

3. 最近の国際的な議論

SAF認証タスクグループの取組状況

背景・目的

- ICAOの枠組でCO2削減効果のあるSAFとして認められるためには、「**CORSIA適格燃料**」として登録・認証を得る必要がある。官民一体となって、**国産SAFの登録・認証の取得**に取り組む。
- あわせて、当該取組が円滑に進むよう、**得られた知見をガイドライン**として作成し広く共有する。

取組① パイロット事業者の支援

- 新規のSAF原料※1の登録を行う事業者が拡大するよう支援を継続。

※1)：植物油、残渣、木質、都市ゴミなど

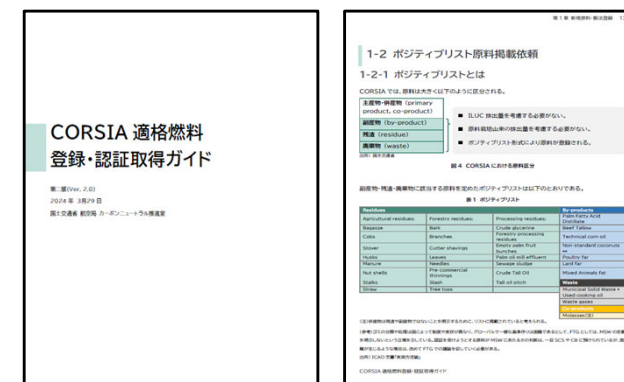
パイロット事業者(R5年度)

出光興産	ENEOS	日揮ホールディングス・コスモ石油
日本グリーン電力開発		Biomaterial in Tokyo・三友
レボインターナショナル	日本製紙・GEI・住商※2	積水BR※2

※2)：R5年度より2社が新規に参加

取組② ガイドラインの改訂

- 昨年度の成果をとりまとめたガイドラインについて、取組の進展を踏まえ今後も継続的に改訂。



取組③ ICAOの専門家会合への参画・リストへの追加

- 日本から新規原料（規格外ココナッツ）登録を提案、R5年10月に**専門家会合で合意**。R6年3月に正式反映。
- 今後、デフォルト値算定に向けて、国内研究機関と連携した体制を構築して対応。

- 「CORSIA適格燃料認証取得ガイド（Ver 1.0）」としてR5年7月にHPで公表。
URL <https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk8_000008.html>
- SAF製造事業者に対して、ICAOへの新規原料・製法登録の流れ、認証取得の流れについて、公開されているICAO文書等では不明瞭な部分やノウハウに相当する部分を解説。

目次

1. 導入

- 1-1. 新規原料・製法登録の流れ
- 1-2. CEF認証取得の流れ
- 1-3. 関連文書リスト

2. 新規原料・製法登録の流れ

- 2-1. 原料分類の確認
 - 2-1-1. FTGへのポジティブリスト登録依頼
 - 2-1-2. FTGへのデフォルト値策定依頼
- 2-2. Core LCAの決定
- 2-3. ILUC（DLUC）の決定

3. CEF認証取得の流れ

- 3-1. ライフサイクルGHGの計算手順
- 3-2. 持続可能性基準の確認
- 3-3. SCSの選択
- 3-4. 認証機関への申請
- 3-5. 監査の準備と実施
- 3-6. 認証の発行
- 3-7. 他事業者による認証取得
- 3-8. サプライチェーン上の情報伝達
- 3-9. 定期的な監査の実施

SAF利用評価タスクグループの取組状況

- 第4回SAF流通WG (R5/7/10) において新設。
- SAFの利用促進には、**利用者自身がSAF利用によりどれだけCO2排出量の削減に貢献したか把握できること**が重要。特に物流業界からは、国際的に使用されている「**Scope3(事業活動に関する間接排出)**」の利用を求める動きもあり、**ガイドラインの作成などの要望**が上がっている。
- 本TGにおいて関係業界※間で課題整理・認識共有を行い、**早期の環境整備**を図る。

※エアライン、フォワーダー、旅行代理店、荷主、旅客、認証機関



主な取組内容

・CO2排出・削減量の計算方法

他国、他業界におけるCO2排出量の計算方法、貨物/旅客の間の配分方法等を調査し、SAF利用の可視化ができる仕組みを検討。

・不正防止、第三者認証システム

二重計上などの不正を防止するシステムとするため、第三者認証システムに必要な要件を検討。

“空のカーボンニュートラル”シンポジウム Vol.2の開催 ～SAF(持続可能な航空燃料)の環境価値の見える化～

1 概要

2050年のカーボンニュートラルに向けて、航空分野においても脱炭素化の機運が高まっている。その中でSAF（持続可能な航空燃料）は、航空脱炭素化に向けた切り札とも言われ、その利用拡大は重要な課題。

今年度のシンポジウムでは、航空の物流を中心に、Scope3をはじめとした国内外における脱炭素化を取り巻く最新の情勢や、企業の取組状況、そして今後の課題など、様々な業界を交えて議論し、SAF利用の重要性についての理解を深めていただいた。

2 開催概要

- ・日 時：2024年2月21日（水）13:00～17:00
- ・開催方法：ハイブリッド開催（会場開催及びYouTubeでのライブ配信）
（会場：飯野ビル4階イイノホール&カンファレンスセンター Room A）
- ・主 催：国土交通省、資源エネルギー庁



3 参加者数 約1,700名（オンライン聴講延べ人数含む）

※当日の映像は、QRコード又は以下URLから視聴できます
<https://youtu.be/P-5pMXbHWi8>

4 当日の様子



基調講演



パネルディスカッション



登壇者展示ブース

1. 令和5年度における航空局の取組

2. 令和6年度における航空局の取組

3. 最近の国際的な議論

令和6年度における航空局の取組

■ CORSIA適格燃料登録・認証支援

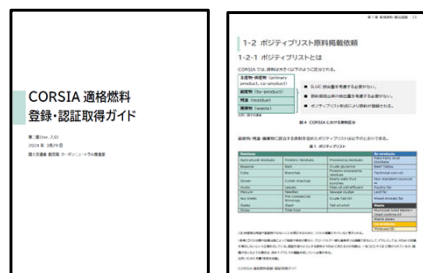
① パイロット事業の支援

出光興産	ENEOS	日揮ホールディングス・コスモ石油
日本グリーン電力開発	Biomaterial in Tokyo・三友	積水BR
レボインターナショナル	日本製紙・GEI・住商	三菱商事

③ ICAO専門家会合への参画 (FTG)



② 認証ガイドの改訂



④ 大学との連携

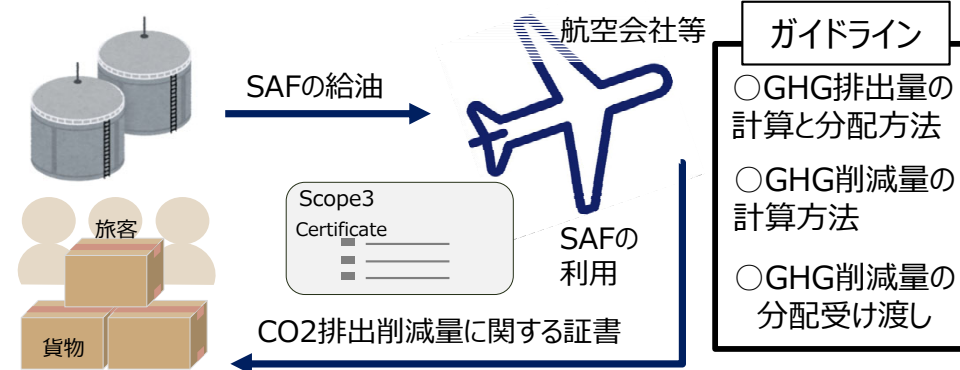


認証機関(SCS)設立の支援



■ SAFによるCO2排出削減の可視化

- ① SAF利用可視化に向けたガイドライン（案）の実証
- ② 関連ガイドライン等との整合性の確認
- ③ 航空利用者の理解促進



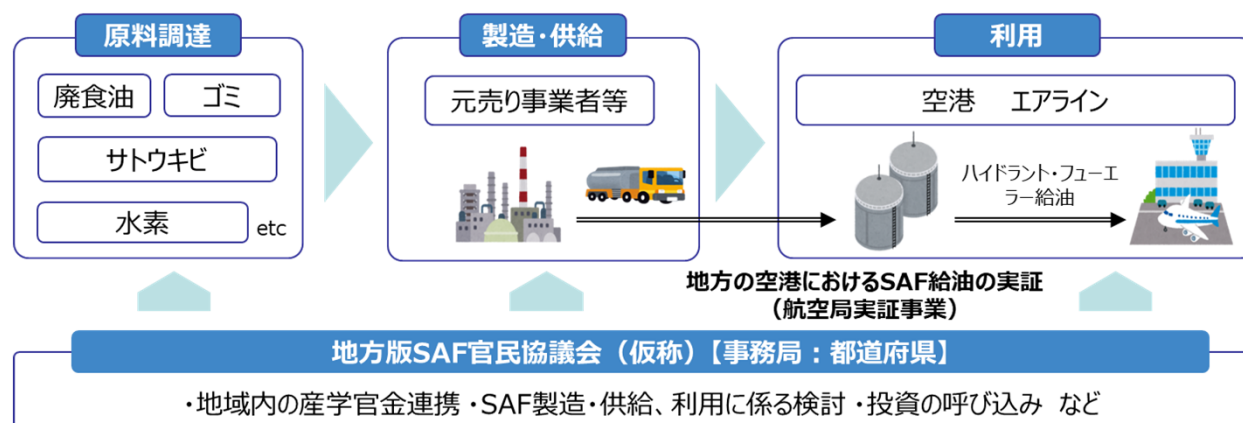
■ SAFの機運醸成に向けた取組

① メディアを活用した情報発信

- ・Grasp（国交省発行のWEBマガジン）
- ・「空のカーボンニュートラル」シンポジウム
- ・「ソラカボ☆ポータル」の運営
- ・「ソラカボ☆チャンネル」の運営
- ・新聞広告
- ・講演等を通じた発信
- ・取材等を通じたTV等での放映
- ・空港YouTubeとのコラボ



② 地産地消によるSAF導入支援



① パイロット事業の支援（継続）

- 事業者個別に事業進捗を伺った上で、対象事業を再選定した（次頁）。
- 今年度は、事業の状況に即した支援となるよう内容に柔軟性を持たせる。
 - ✓ 硬直的に認証スキームのコンサルにあてず、状況によっては事務局との検討会を主とする。
 - ✓ 状況が流動的な中でも認識がずれないよう、開始時に対象案件と年度目標を文書化（変更時は改めて協議）、終了時に結果・成果を整理したい。

② ガイドラインの改訂と知見の共有（継続）

- 全体会合の実施（年2～3回）
- CORSIA適格燃料登録・認証取得ガイドの改訂
- 全体セミナーは現時点で要望が無いため、今年度は実施しない

③ ICAO専門家会合（Fuel Task Group）への参画（継続）

- 準備の整った案件は順次提案（FTG/8）
- 国内事業者と関連の深い案件について議論を注視（グリッド送電による再エネ活用 等）

④ 専門家育成のための大学等との連携、SCS設立支援（新規）

- 大学等との連携：R6年度調査事業として東京農工大が受託、パイロット事業のアドバイザー・FTGへの参画をお願いしていく。
- SCSの設立：日本海事協会が新規SCSとしてICAOに申請（5月）、審査期間は半年間の見込み。

利用評価 T G 令和6年度の取組

- ① SAF利用可視化ガイドライン実証(ガイドラインの検証)
 - ・ 令和6年度「企業のScope3対応に向けた航空貨物輸送でのSAF活用促進事業」(東京都)との連携
 - ✓ 国交省SAF利用評価ガイドラインへの準拠が補助要件の一つ
 - ✓ 事業履行中に、参加事業者(貨物代理店等)との意見交換をもち、ガイドラインもしくは各社プログラムの改善点を聴取
- ② 算定評価・管理項目の動向確認
 - ・ 関連規定・物流ガイドライン等の改訂動向
 - ✓ GHGプロトコル、SFCガイドライン、GLECフレームワーク等
 - ・ 関連省庁(環境・経産・国交)の排出評価ガイドラインとの横通し
- ③ 航空運送利用者の理解促進に必要な施策の検討
 - ・ 環境・経産・国交(他運輸モード)等との意見交換
 - ・ 荷主との意見交換
 - ・ ニーズ把握のための動向調査
 - ✓ CDP、SBTi、ISSB(国際サステナビリティ基準審議会)・金融・取引所の動向等
 - ・ SAF以外の排出削減評価の在り方(低燃費機材、運航改善など)

上記の結果を整理して、SAF利用評価TGにて議論
必要に応じてガイドラインを改訂

SAFの機運醸成に向けた取り組み

広報 令和6年度の取組

①航空局における新規コンテンツの企画・実施

○Grasp

国交省発行のWebマガジンGraspにて航空分野の脱炭素をテーマにインタビューの実施および掲載



○「空のカーボンニュートラル」シンポジウム（第3回）開催



○「ソラカボ☆ポータル」&「ソラカボ☆チャンネル」の運営 (航空脱炭素化に関する航空局のWEBサイト&YouTubeチャンネル)



②パブリシティ活動を通じた情報発信

○新聞記事広告を活用したSAFプロモーション

航空機利用者を中心にSAF理解度向上を図るため、新聞紙面にSAFの認知拡大を目的とした記事広告を掲載し、企業の経営者・管理者等のビジネス中核層に対するプロモーションを実施（朝刊1面・カラー版を想定）



紙面イメージ

○各種イベントでの講演等を通じた発信

○取材等を通じたTV・WEB等での放映

○空港YouTubeとのコラボ

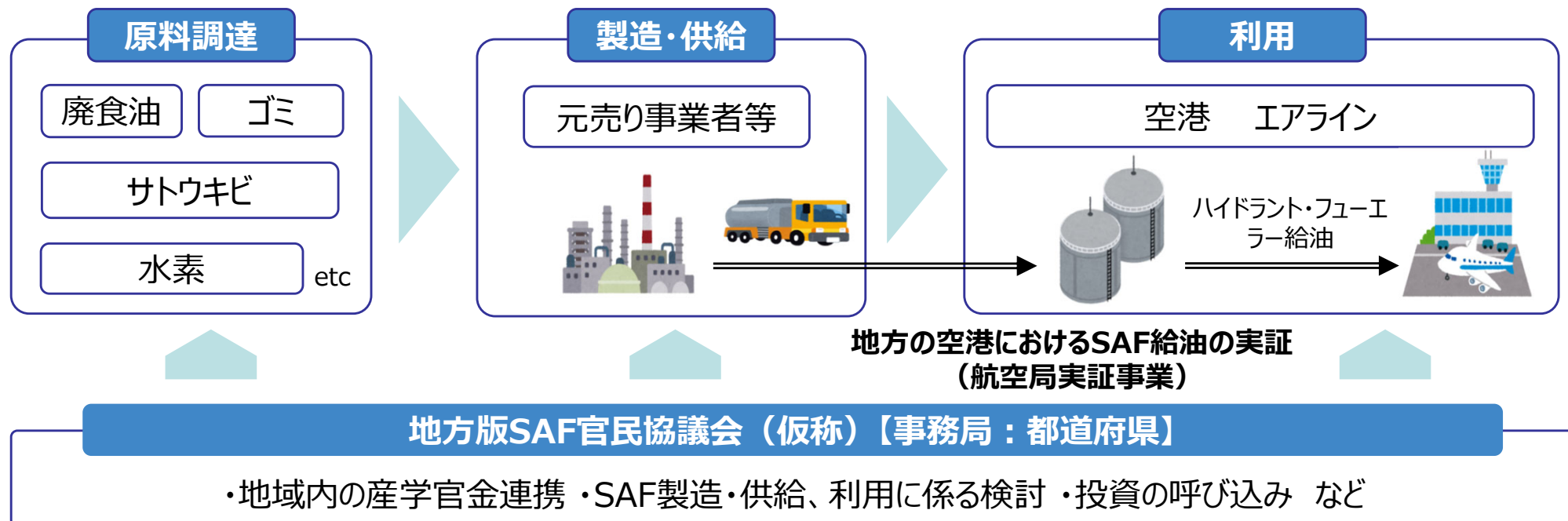
SAFの機運醸成に向けた取り組み 地産地消によるSAF導入支援

事業の背景

- 航空脱炭素化に向けて、国産SAFの安定供給及び利用拡大が重要であり、2025年より商用化が予定。
- 航空ネットワークの維持・強化、国際線誘致の観点から、地方の空港においてもSAFが確実に供給・利用される必要。
- 地域において、原料調達から製造・供給、空港での利用まで、官民連携によるサプライチェーン構築が重要。

事業の内容

- 地産地消によるSAF導入を検討する地域において、SAF製造・供給の候補地からの輸送及び地方の空港における給油までの取組を実施。
- 応募の主体：地産地消によるSAF導入を検討する会議体
- 応募の要件：原料調達から製造・供給、利用までの構想作成



1. 令和5年度における航空局の取組

2. 令和6年度における航空局の取組

3. 最近の国際的な議論

最近の国際的な議論

G7交通大臣会合【伊勢志摩】 (令和5年6月16～18日)

- G7（日、加、仏、独、伊、英、米、EU）において、既存ジェット燃料と比較してCO2排出量の過半を削減可能なSAFの製造を拡大していくことで合意



ISE-SHIMA MIE
Transport Ministers' Meeting



(斉藤鉄夫国土交通大臣)

CAAF/3【ドバイ】（令和5年11月20～24日） (ICAO Third Conference on Aviation Alternative Fuel)

- SAFに係る目標：**SAFを利用して2030年にCO2排出量を5%削減**※1,2
 ※1 世界全体での目標値（各国が達成義務を負うものではない）
 ※2 既存ジェット燃料を100%使用した場合の排出量と比較
- その他、途上国に対する能力構築(ACT-CORSIAやACT-SAF)、金融面における支援策(ICAO Fininvest-Hub)等を盛り込んだ世界的枠組みに合意



グリーンレーン構想（AGL）

- 日星政策対話（第1回）において、SAF利用を含む脱炭素の取組を促進するための「グリーンレーン構想（AGL）」を進めることに合意。その後、米国を含めた三カ国で協働
- CAAF/3においてAGLのコンセプトを取りまとめた作業文書を提出
- 2025年のパイロット事業化に向けて協議中

(※左から、大沼俊之航空局次長、ハン・コク・ジュアンシンガポール航空局長、アニー・ペトソク米国運輸省次官補)



CAEP SG in Takamatsu, Japan(令和5年10月16～20日)

- ICAO各国の航空関係者約180名が参加（日本で初開催）
- SAFを含む国際航空分野の環境問題を議論



(左：大沼俊之航空局次長，
右：会場に掲げられた「蒼穹」の文字)

シンガポール

(日星政策対話) 第1回 令和4年12月23日
 第2回 令和5年7月24日
 第3回 令和6年秋頃予定

米国

(日米当局間対話) 令和5年1月19日
 令和5年3月17日
 (日米政策対話) 令和5年6月21日

各国の航空当局との意見交換

韓国

(日韓航空政策対話) 令和6年5月16日



(左から、キム・ヨングック航空政策官、大沼俊之航空局次長)

フランス

(日仏作業部会) 令和6年2月7日

EU

(日EU運輸ハイレベル会合) 令和5年3月2日